

～値段のないスーパーマーケットを開催～

生産・流通と消費者間の距離を埋めるべく、農業者・流通小売業者・消費者それぞれの意見・思いを共有し、会場参加者には米・野菜などの値付けを体験！すべての人にとってのフェアプライス（適正価格）を考えてもらい、広く理解・共感を得ることを目的に取り組んだ。

○ 施策分類

その他（食料システム法、フェアプライスプロジェクトほか）

○ きっかけ・背景、課題の把握

国際情勢等の影響により、食品の原材料や生産資材、エネルギー価格が高騰し、円安の進行によって、生産資材や人件費、流通コストが上昇し、農林水産業・食品産業は深刻な影響を受けている。他方、米については品不足等を起因として高騰が続いている。今こそ、生産現場（農業）・流通小売と消費者間の情報交流を通じて適正価格を考える場を設ける必要があった。

○ 取組の内容

食料システム法の紹介に続き、農業者・流通小売業者・消費者（学生）により、それぞれの現状・課題や、適正価格をテーマにパネルディスカッション。併せて、会場参加者にはその前後で米・卵・野菜の値付けを行ってもらい、広く共感を得た。

なお、パネリストは女性活躍推進の観点から全員女性を選定、Z世代の行動変容に取り組むため、安田女子大生にも依頼。

○ 効果・成果、今後の方向性

当日は、会場・オンライン参加を合わせて約70人であった。参加者からは「フェアプライスの必要性を感じた」、「誰かの犠牲で価格が決められるのはいけない」等の感想があり、合理的な価格形成の理解醸成に寄与した。



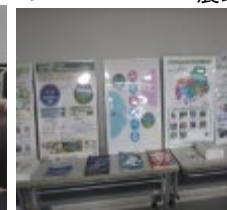
パネルディスカッション



農政局からの情報提供



Z世代の女子大生



見える化の推進



広島矯正管区との連携

体制図

